



古代吉備のロマン深まる

神明遺跡から銅鐸が出土

国道180号バイパスの延伸工事に伴う発掘調査を行っていた神明遺跡(福井)で銅鐸が出土し、9月20日に現地説明会が開催されました。

銅鐸の大きさは、高さ約31cm、下縁の幅約16cm、奥行き約10cm。発見されたのは集落の西の外れにあたる場所で、長さ約80cm、幅約40cm、深さ約30cmの大きさの穴(埋納坑)から、横向きで鱗を立てた状態で出土しました。

発掘調査中に銅鐸が出土したのは、全国で20例目。県内では、25年前の高塚遺跡(岡山市北区)に次いで2例目です。

発掘にあたった古代吉備文化財センターの調査員は、「今後研究を進めるうえでの重要な発見となった」と述べました。



現地説明会には約480人の歴史ファンが詰め掛け、古代吉備文化の新たな発見に胸を躍らせた(写真上)。発掘された銅鐸は、弥生時代中期のものと推測される(写真左)



市役所の駐車場には往年の車がズラリ



ライトアップされたまちかど郷土館



獅子舞に頭をかまれる赤ちゃん



昔遊びのふんぶんごまに夢中



水あめの味は昭和の味

ミニフォト

秋の生き物バツタに触れる



バツタを捕り喜んで子ども

自然観察会「バツタを探そう」が9月27日、鬼城山ビジターセンター周辺で行われました。市内の小学生と保護者らが参加。暑い日差しのなか、虫捕り網と籠を手に、さまざまな種類のバツタを捕まえようと奮闘していました。

外国の文化を体験



フィリピン人の歌とダンスを披露

外国の文化や食を知ることができ、総社インターナショナルフェスタが10月4日、カミガツジプラザで開催されました。ダンスのステージ発表や、各国の料理が味わえる屋台を楽しみに、約1300人の人出でにぎわっていました。

幻想的な秋の夜長



照らされた赤い稲穂に見入る

9月20日、備中国分寺五重塔と赤米のほ場で一夜限りのライトアップが行われました。夕日が沈んだ午後7時ごろ、ほ場に向け照明が点灯。照らし出された秋の吉備路の幻想的な光景に、訪れた人らは心を奪われていました。

100歳おめでとう



家族に祝福される板野さん

板野真さん(清音柿木)が10月3日に満100歳の誕生日を迎えられ、市から記念品が贈られました。デイサービスと家族との食事が楽しみだという板野さん。長寿の秘訣は、自作の無農薬野菜を食べてきたことだそうです。

いざという時の備えを



消火器で素早く火を消す

消火技術と防火意識の向上に努めようと10月2日、消火技術訓練大会が消防庁舎グラウンドで開催されました。市内24の事業所や介護施設がエントリー。消火器を使用し、鎮火までの早さや正確性、連携力を競い合っていました。

交通安全へ祈りを込めて



スピードは控えめに

秋の交通安全運動期間中の9月26日、折鶴作戦が総社高校前で行われ、総社高校の生徒ら約120人が啓発活動を行いました。交通安全メッセージを書いた短冊がついた折鶴をドライバーに配布。安全運転を呼び掛けていました。

小さな命を肌で感じる



自然と笑みがこぼれる生徒

将来の子育てや人生設計について考える赤ちゃん登校日が、9月25日から10月2日までの間、計8回、総社西中学校で行われました。3年生約250人が、赤ちゃんとも肌で触れ合い、命の尊さや家族の絆について学んでいました。

迫力ある吹奏楽の演奏



楽器の音色が一つに重なる

明誠学院高等学校吹奏楽部グッドウィルコンサートが9月21日、市民会館で開催されました。「カルミナブラーナ」や「大きなのっぽの古時計」などの曲を演奏。観客はホールいっぱいに響き渡る音色に魅了されていました。

白色のソバ畑が広がる



爽やかな白色の花が咲く

原のソバ畑約1.4haで、10月初旬から中旬にかけて一面に白い花が咲き誇りました。原営農組合は、12月14日に収穫したソバを使用した「そば祭り」を水内河原で開催予定。おいしいそばを楽しむに多くの来場が見込まれます。

カメラ フォトニュース まちの話題

昔懐かしい昭和の町並みを満喫

今年で10周年を迎えた「れとろーど」。9月27日と28日に総社商店街通りで開催され、昭和の風情を楽しむ大勢の家族連れらでにぎわいました。駄菓子屋や昔遊び、ライトアップされたまちかど

大人も子どもも射的が大好き

れとろーど '14

郷土館などが人気を集め、多くの人だかりに。お茶席や生け花、音楽ライブもイベントに彩りを加え、総社商店街通りは昭和30年代のレトロな雰囲気にも包まれていました。